

秋田県の元気な地域の活動情報満載!!

元気ムラ通信 29号

「元気ムラ通信」は秋田県が運営する「秋田県のがんばる農山漁村集落応援サイト」
(通称: 元気ムラ応援サイト)で紹介する地域を中心に、県内の地域づくり活動を
紹介しています。

●発行日: 令和4(2022)年2月15日

あきた元気ムラ
応援サイトは

元気ムラ で検索

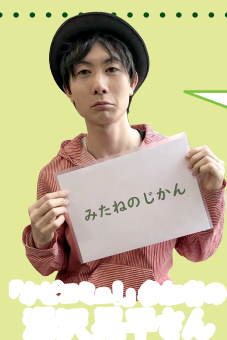
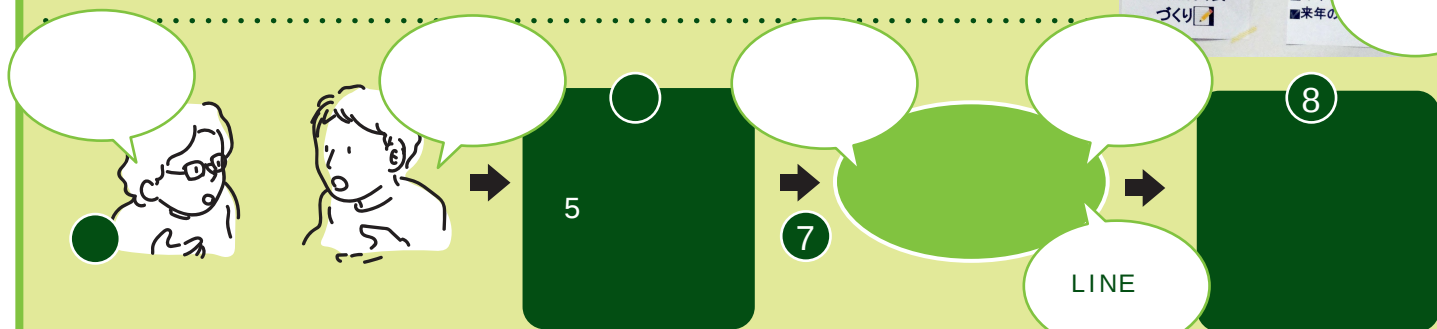
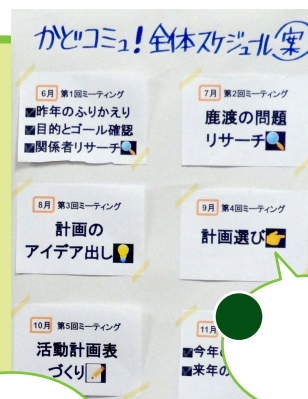
- Twitter アカウント
→ @akitagenkimura
- facebook → 「あきた元気ムラ」



元気ムラサイトを
携帯電話・スマート
フォンで見たい方は
←こちらから!



11 20



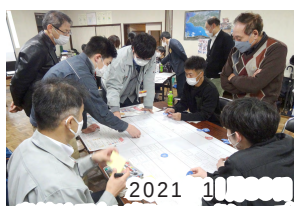
みたねのじかん
海沢晃平さん

県のコミュニティ生活圏形成事業のモデル地区では、住民の皆さんが、地域の現状分析を行い、ワークショップで考えやアイデアを出し合い、これからの地域について話し合いを進めています。



2021 1

ワークショップは、自分の地域に合った夢や目標を見つける手段のひとつです。みんなで考えることは活動の一步を踏み出すきっかけにもなります。また、話し合いだけでは疲れてしまうので、やる気を保つために、気軽に「出来る」ことにチャレンジしていくのもポイントです。



2021 1



2021 12 5

どの地域でも人口減少が進み、コロナ禍で明るい話題が乏しいかもしれませんが、現実と目標の間を少しずつ埋めながら活動していけば地域に元気が生まれてくるのではないのでしょうか？



馬場目地区
(五城目町)

馬場目地区では、月1回、「カフェ chotto (ちょっと) ちゃっこ」というランチ会を開いています。

子供から高齢者まで幅広い世代に集まってもらおうと、住民の女性スタッフが交代制で献立を考え、「無理はしないで楽しむ♪」「みんなの意見を取り入れる」などを心がけて活動しています！



山内地区
(横手市)

山内地区では、令和4年度から始まる「山内地区交流センター」の事業計画を立てています。

従来の公民館事業に、ワークショップで出されたアイデアを加え、貸館業務や生涯学習事業、地域の自主活動などを行います。

1月13日には住民の皆さんによる運営協議会の設立総会が開かれました。今後の活動が楽しみです。

13:30 16:00



昨年11月、岩手県花巻市の皆さんが、大仙市余目地域の直売所「e-かげんな父ちゃん母ちゃんの店」と、南外地域のお互いさまスーパー「南外さいかい市」に視察研修に訪れました。

地域住民による店舗運営はハードルが高く感じるかもしれませんが、両地域とも最

初はプレハブ小屋や、テントの直売市からのスタートでした。いきなり店舗を構えるのではなく、まずは自分たちで「商売」を経験し、活動の積み重ねで現在に繋がっています。視察の際に、地域住民の方が「とりあえずやってみよう！」と話していたのが印象に残る視察交流でした。



元気ムラの地域活動



山田地域
(大館市)

住民運営による 商店とカフェ

山田地域では、昨年 9 月、地域唯一の商店がなくなったこともあり、住民が運営する商店「Store たんひ(ストアたんひ)」と、併設する交流サロン「Cafe Acco(カフェあっこ)」をオープンしました。

住民の皆さんが県のコミュニティ生活圏形成事業でワークショップに取り組み、意見交換を重ねて実現したものです。食品、惣菜や日用品の他、産直野菜などを販売しており、スタッフは主に地域のお母さん達です。

20 席ほどある交流サロンは、いつでも自由に集える拠点として、イベントや講座の開催場所として活用されています。

さらに、調理師資格をもつスタッフが、週 2 回、予約のみで手作り弁当を販売しています。また、地域内の一人暮らしの高齢者に向けた配達販売もスタートしました。

「たんひ」と「あっこ」は住民によって支えられている地域の拠点になっています。



浅見内地域
(五城目町)

みせっこあさみない 5 周年祭♪

浅見内地域の住民が運営する商店「みせっこあさみない」は、お母さんたちの料理の腕を生かした「食事スペース」も完備しています。

昨年春に 5 周年感謝祭を開催予定でしたが、コロナ禍でやむなく延期に。しかし、「5 周年を迎えることが出来たのは地域の方々のおかげ」「どうしても感謝の思いを伝えたい」と、昨年 11 月、地域の皆さんに食事をふるまうという形で感謝祭を開催しました。三杯酢を鍋で少し煮て冷ましたものに、フルーツ缶詰や春雨、きゅうり等を入れて作るデザート“あじゃらっこ”も振る舞われ、フルーツポンチ風で、さっぱりとした味が好評でした。

当日は天候にも恵まれ大盛況!「一人暮らしで寂しいから、人の往来を見ているだけで楽しいよ!」「地域にこういう場所ができて本当に助かっている♪」と話す方も。住民にとってなくてはならないお店であり、地域の憩いの場になっています。



亀田地域
(横手市)

“りんごの里”存続へ 体験イベント

りんごの産地・亀田地域では、毎年 2 月に開催していた「担い手交流事業」を、“講演会”形式から「ワークショップ(体験型講座)」に切り替え、“雇用の確保”をテーマに、平成 31 年から計 3 回、ワークショップを開催しました。

「りんごの里」の存続には担い手となる人材の確保が不可欠です。この課題を解決していくために、全住民にアンケートを実施したところ、地域のりんご農園を地元の方々に深く知ってもらう必要性が明らかになりました。

そこで、亀田地区交流センター運営協議会は、昨年 10 月、“りんごの園地散策～もぎ取り体験～”を開催。約 3 キロの道のりを歩き、果樹園を散策、最後はリンゴのもぎ取り体験で締めくくりました。参加者はりんごの生命力と 2m 近くの積雪時にも対応してきた農家のがんばりを体感したようです。「りんごの里」の存続に向けてさらなる一歩を踏み出し、新しい力を呼び込もうと頑張っています。



※2021 年に取材したものを掲載しました。



羽後町・仙道地域 仙道番楽団の皆さん



夜になると会館から聞こえる太鼓の音。
練習が始まると真剣なまなざしに。

仙道地域に古くから伝わる仙道番楽。毎週木曜夜、仕事を終えた番楽団の皆さんが、新処（あらところ）集落の会館に集まり、練習が行われています。

練習風景には女性の姿も見られ、現在、3人の女性が番楽の舞手として参加しています。

子供の頃、学校の授業で踊った経験のある方もいれば、獅子舞役のお父さんに憧れて参加する娘さんの姿も。

また、昔から番楽は新処集落を拠点に受け継がれてきたため、他の集落に住んでいた女性は「番楽団には入れないもの」と思っていたそうです。

番楽団でメンバーを募集していることを知り参加したところ、家族や同じ集落の人から「うちの集落から踊り手が出るのはすごい」と喜ばれたそうで、現在、地元の小学校児童の郷土芸能の指導も女性たちが行っています。

「番楽」がつなぐ、人のつながり

仙道の皆さんにとって、番楽は子供の頃から身近な存在でした。

しかし、中学生になると部活動などで忙しくなり、番楽と関わる機会が減ってしまいます。

でも、そこは不思議なもので、大人になり、親となって、自分の子供が番楽の練習に通うようになると、お子さんの姿を見ているうちに、また演じたくなるそうです♪

「伝統芸能」というと、敷居が高く感じることもありますが、仙道番楽団の練習風景は、とてもアットホームなものでした。仕事の残業や農繁期が重なると両立は大変ですが、自分たちの踊りで観客から大拍手を送られれば、やりがいになる

そうです。この日も新処会館から太鼓の音が心地よく鳴り響いていました。



2021年10月に取材した内容を掲載しました。

地域の味 つゅっこ餅 (つゆ餅)



能代市の地域を訪れた際に出合った「つゅっこ餅（つゆ餅）」。つくたてのお餅をだし汁に入れて食べるシンプルなお料理で、昔は結婚式場で振る舞われたそうです。だし汁の原料は、地鶏や野菜など家庭によって様々。栄養たっぷりの汁に、ほかほかのお餅をちぎって入れると完成です♪

編集後記

最近、テレビ番組の影響か、自分の祖父母が住んでいた場所を調べている方からの問い合わせが増えています。秋田を訪れたことは無いけれど、ご先祖様が暮らしていた土地の歴史が気になるようです。自分のルーツをたどることは、謎解きをしていくようで面白いかもしれませんね。

元気ムラ通信のご感想・ご意見も
お待ちしております！

【発行】秋田県 あきた未来創造部 地域づくり推進課（元気ムラ支援班）

●住所／〒010-8570 秋田県秋田市山王4丁目1-1 ●電話／018-860-1215 ●FAX／018-860-3875 ●E-mail chiiki@pref.akita.lg.jp